

IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム第20回会合議事録

1. 会合の概要

日時： 2022年6月20日(月)17:00-18:17

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数：16名

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

Aoki	Kuninori	株式会社 ASJ
小畑	至弘	IoT-EX 株式会社
加藤	幹之	MK Next（司会進行）
上村	圭介	大東文化大学
河内	淳子	CFIEC
佐々木	雅人	フリーランス
柴田	輝之	総務省
Suga	Yuji	Internet Initiative Japan Inc.
高松	百合	JPRS
立石	聡明	JAIPA
浜田	忠久	JCAFE
堀田	博文	JPRS
前村	昌紀	JPNIC
森口	友里	株式会社インターリンク
森下	大	総務省
山崎	信	JPNIC（議事録案作成）

2. 発言録

【加藤】そろそろ5時になりましたので、第20回のIGF活発化チーム会議を始めたいと思いますが、山崎さん、皆さんおそろいでしょうかね。今日は、飯田さんほか、総務省の方とか、MAGの河内さんとかはおいでになっていらっしゃいますか。

【山崎】総務省の方はお二人、入られています、飯田さんはまだお入りではないです。

【加藤】そうですか。

【山崎】前村は遅れますので、もう先に進めておいてくださいということでした。

【加藤】分かりました。河内さんもまだ入っていらっしゃらないですね。

【山崎】河内さんは入っていらっしゃいますよ。

【加藤】入っていらっしゃいますか。ごめんなさい、僕、全員の名前が見えなかったのです。

【河内】入っています、すみません。

【加藤】失礼しました。お疲れさまです。

それでは改めて、第20回のIGF活発化チームをスタートしたいと思います。今日はお忙しい中ありがとうございます。

飯田様が参加されるまで順番を逆転したほうがよろしいのでしょうか。総務省の方でどなたか、その辺の御予定を御存じのことがあれば。それとも、どなたか別の方が、最近の日本政府の状況について御報告いただければと思うんですが、いかがでしょうか。

【柴田】申し訳ございません。データ課の柴田でございますけれども、申し訳ございませんが、当課で飯田の予定を把握していないところがありまして、どの時間に入るのか分からない状況にあります。また、そちらの最新の状況のほうも、すみません、私どものほうでインプットできる情報が今手元にございませんので、ほかの項目から始めていただくのがよろしいのかと思います。

【加藤】分かりました。それでは、もし飯田様が参加されれば、その時点で参加していただく、御説明いただくということで、MAGの状況について、河内さん、参加いただいたということですので、ぜひ、最近の状況、アップデートがあればよろしく願います。

【河内】聞こえるでしょうか。

【加藤】聞こえております。

【河内】先週の火曜日の夜中に会議がありまして、6月10日が締切りでワークショップの募集をしていたんですけど、それが締め切られて、事務局がスクリーニングをした結果、今、正確な数はちょっと不確かなんですが、460だったか70だったか、それぐらいの数のワークショップがスクリーニング結果として残っていて、それを40人のMAGメンバー全員で手分けして中身の適正さについてのチェックを29日まで、来週までにすることになっています。¹

1人、大体40件から50件ぐらいずつチェックすることになっていて、今それをやり始めたところになっています。

29日までに全部のワークショップの提案をチェックした後、それを事務局がまとめて、7月の6日から

¹ その後発言者が確認した結果、418の提案がオンライン提案システム上で作成され、結局294の提案が提出され、事務局のスクリーニングの結果、245の提案数になったとのことです。去年は203だったようで、少し増えているようです。

8日に第2回のオープンコンサルテーションのミーティングが予定されているので、そこで最終的な結果として事務局からまとめたものが提出されて、それを議論することになるんだと思います。そんな感じに今はなっています。MAGの状況はそんなところですかね。

【加藤】ありがとうございます。最終的に幾つぐらいがターゲットになるという予感みたいなのはあるんですか。あんまり言っちゃいけないんですけど。

【河内】分かんないです。去年、この間、ワークショップ、JPNICさんでみんなで手分けしたやったやつって全部で幾つありましたっけ。

【加藤】200幾つでしたかね、山崎さん。200……。

【山崎】私もちょっと正確な数は覚えていませんが、200台でした。

【加藤】二百二、三十ぐらいありましたよね。

【河内】どうなんですかね、私、MAGの経験が初めてなのでどれぐらい減らしたりとかするのが分からないんですけど、去年が二百何十個だとすると、半分近くになるということですよ。もうちょっと増えたとしても、半分近くに減らされるんですかね。そんなに減らせるのかどうかよく分からないんですけど。

【加藤】多くは、例えば8トラックあって、部屋が8つあって、いろいろネットで配給するサービスがあると。そうすると、1件60分から90分の枠だということ、何個入れられるかというので枠がどうしても決まっちゃうんですよ。そういう物理的なことというのが、多分、MAGのところで内部的には御説明あるのかなと思うんですが、まだそこまではっきりしてないのかもしれないですね、現時点では。

あと、単純にカットするだけじゃなくて、これとこれはくっつけたほうがいいという、そういう検討も昔はやりましたよね。今回、そういう指示はないのかなというのはありますけど。

【河内】取りあえず、その40何件をウェブ上でそれぞれの項目があって全部チェックとかしていくような形の評価をするんですけど、その結果をまとめた上で議論するんじゃないかなと思うんで、今の時点ではまだそこまでは言われていないです。

【加藤】分かりました。

【河内】ただ、グループ分けされているんですよ。5つにグループ分けされていて、テーマを4つに大きく分けたうちの一つ一つがすごく数が多いので、2グループに分かれているんですけど、そのグループが、8人ずつですよ。40人で5グループあるので8人ずつなんですけど、そのグループで何をするのかちょっとまだ分かってなくて、もしかしたらそのグループの中でそういうところを後で議論するのかもしれないです。すみません、ちょっと分かってなくて。

【加藤】分かりました。

ありがとうございます。河内さんに御質問ございますか。今回のワークショップ等の応募の話以外も含めて、今後のIGFの全体のことではいかがでしょうか。

山崎さん、どうぞ。

【山崎】質問ではなくて補足ですけども、その先、加藤さんがおっしゃった、セッションを複数くっつけるといってお話は去年もありましたし、おとし以前も、見ていますと、これとこれが合体して一つのセッションになったという例はございました。

以上です。

【加藤】ありがとうございます。ほか、いかがですか、御質問は。

【立石】すみません、立石ですけど、これ、最終的に決まるのというのはいつでしたっけ、すみません。どっかに書いてあったのかもしれないけど、覚えてないので。

【河内】すみません、私もちゃんとよく分かってないんですけど、恐らく7月の2回目のオープンコンサルテーションの後になると思うので、でも7月の中旬ぐらいですかね、すみません。ちゃんと分かってなくて。

【加藤】いえいえ。大体7月中ぐらいには分かるということですか。

【河内】じゃないですかね。ちょっと……。

【加藤】大体で結構です。

【河内】はい、申し訳ありません。

【加藤】ちなみに今回はこの会でこういう応募、日本からもあるといいなって飯田さんもおっしゃっていたんですが、日本から、これは河内さんが内部の情報を漏らすわけにいかないでしょうから、皆さん、この場にいらっしゃる方で御存じの方で日本から応募って今回、いろいろあったんでしょうかね。どなたか御存じの方があれば、やるぞというのを共有していただいて。同時に今度、日本での秋の会へ参考情報にもなりますので。よろしければ。

【立石】分からないですけど、一応出しましたので、何だっけ、日本の違法有害情報の取組だから、あまりにも日本国内マターなんですけど、今まで逆に言うと情報発信しなかったもので、日本の情報発信ということで、あと、海外の人に聞いてもらって感想を聞くみたいな感じのセッションの提案をしています。

ただ、ちょっと書き過ぎた感があるぐらい、実は膨大な量のディスクリプションを書いちゃったので、読んでもらえるかどうかは微妙かなという感じではあるんですけど。

すみません、以上です。

【河内】ちなみに私に割り当てられている44件には日本からの提案はなかったと思います。日本から提案といってもいろんなスピーカーの方とかで入っているので、ちょっとよく見ないと分からないんですけど。

【加藤】河内さん、これはMAGとしての立場じゃなくて、お近くにいらっしゃるということで、横澤先

生とか、そういうグループからは何かおありになるんですか。ICC（国際商業会議所）とか……。

【河内】いや、横澤さんからは出してないです。

【加藤】お出しになってないんですか。

【河内】ICCは出しています。

【加藤】ICCとしては出ているけど、あれは、横澤さんが出されているということはないんですか。

【河内】横澤さんというより、ICCとして出しているんだと思うので。

【加藤】ICCは例年、何点か出されているでしょうけど。ごめんなさい、どうぞ。

【河内】多分ICCは、ICC単独と、あとOECDのBIAC ([Business at OECD](#))と一緒に、多分、TGA (Trusted Government Access)とかのテーマで出しているんじゃないかと思うんで、ICCが何件か出しているのかもしれないですね。

【加藤】まだ飯田さんはいらっしゃらないですけども、柴田さん、もし御存じであれば、日本政府に近いところから何かお出しになっているというのはないんでしょうか。

【柴田】すみません。前回までに飯田さんが発したこと以外は、私、分からないですけど。

【加藤】分かりました。日本としても情報のDFFTとか、その辺をサポートするようなことがいいのかな、なんていうのもありましたけれども、そういうことはまだ情報はつかんでいらっしゃらないということですね。

分かりました。では、今この場で明確なのは立石さんが一つ出されたということで。

それじゃあ、河内さん、追加情報、それでよろしいですか。今日おいでになるので、また全体のIGFについて御質問を後で思いつかれたら、河内さんにまた質問していただければと思います。

それでは、アジェンダ上、次に行きます。次はプログラム委員会のお話でしたね。

山崎さん、ちょっと戻していただけますか。プログラム委員会の関係で、拡大プログラム委員会ということでスタートしていただいて、私もメンバーなので会議に出させていただいたのですが、上村先生、おいでになりますか。

【上村】います。

【加藤】よろしくお願いします。

【上村】ちょっとお待ちください。もうプログラム委員会の報告をしちゃっていいんでしょうか。

【加藤】お願いします。

【上村】はい。プログラム委員会、いろいろありましたけども、先日ようやく正式にというか、本腰を

入れてスタートすることになりました。まだ私がメールでも、それ以外の形でも、直接御連絡を差し上げてない方にも入っていただいておりますが、それは追い追いまた御説明をする機会を設けたいと思います。

それで、まずプログラム委員会ですけど、私が委員長で、それから堀田さんが副委員長で進めるということで、メンバーの中で互選をいたしました。副委員長は1人とは限りませんので、今後、タスクごとにサブチェア的な人を置くことになるだろうと思いますが、いずれにしても、もろもろの調整を、こういう体制で進めていって、秋の10月のイベントの実施につなげたいと思っています。

それから、今御覧になっているのはプログラム委員会のアジェンダ兼議事メモです。多分、外に漏れてひどく困ることはないと思いますけれども、それを基に、今日は御説明をしています。

それから、名称ですね。拡大プログラム委員会という名前も一時期、言葉もありましたけど、紛らわしいので、プログラム委員会ということで進めてきますので、今後はそのように用法の統一をお願いいたします。

中のことですけど、プログラム委員会の中で、それからもう一つ、前回の――前回というのは昨年のイベントの反省で、担当割がふわっとして、誰がどのボールを握っているのか分からないということが割とありましたので、今年度、今回については、委員長、副委員長を決めるだけではなくて、それぞれの委員の方に、主要なボールとサブ的なボールの2つぐらい持っていただいて、そのボールを持っている人を中心に準備や当日の実施を進めていきたいというふうに思っているところです。これは前回の反省からこのようにしようと思ってプログラム委員会を進めております。

メンバーについては、前回の活発化会合で、このプログラム委員会を実行委員会的な強い組織にしようという話になりました。そういう意味では、現在、メンバー、委員が若干薄い感じがいたします。薄いというのは、質的にも量的にもで、質的にもというのは、各セクターが十分にカバーされているかということですし、量的というのは、人数的にこれだけでいいかというのがありますので、今後、企画を進めたり、それから、当日の運営を進めたりする中でお声がけを個別にしていけることもあるかもしれません。よろしく願いいたします。

それで、前回の活発化チームの会合でイベントの日時について提案をしますと、今日の場で提案をすべく調整をしますと約束をいたしました。それが2点目です。これは報告だけではなくて、この点については、今日の場で、これで開催しましょうという合意を皆さんにいただきたいと思います。

プログラム委員会の中で、週末にかかったほうがいいのかとか、平日の午後、あるいは夕方の方がいいのかということを議論した結果、プログラム委員会の提案としては、10月27日木曜日、28日金曜日の2日間の開催で提案をいたします。両日とも15時開始、18時半頃終了というイメージです。終了時刻については、当然、その日のプログラムの都合によって多少前後することもあると思いますが、15時から18時半ぐらいまでのウインドウで開催するという御提案です。

今写っている資料の下の方にアンケートの集計結果というのがありますが、飲み会の日程を決めるのではないので、単純に多数で決められないところもあります。もしかすると、このアンケート結果でこの日程になるのは望ましからぬという御意見もあるかもしれませんが、そういったことも踏まえて

議論をした結果、この2日間の日程を提案するという事になった次第です。何とぞ御理解いただければと思います。

それから、続けて報告しますと、2点目、こちらもこの場で御報告と、コンセンサスを得るべきかと思うことで、2点目としてあるのが、セッションの募集期間の延長です。

現時点での募集の期限は6月26日、次の日曜日となっていますが、これを2週間延長して、7月10日曜日までとしたいと思っています。当初は一旦締め切って、手元にある提案を眺めながらメインセッション的なものの企画をして、2次募集をする・しないを考えようと思ったりもしたんですけども、応募にかかる人の動向などを何となく伺っていると、一旦切って2次募集をするよりも、延長して、このタイミングに確実に提案を出してくださるよう働きかけたほうがよいだろうということになりまして、このようなことを考えた次第です。

ついでに、募集期限の延長をアナウンスすることと併せて、10月27日、28日の午後の開催にしましたということもお伝えしようというふうに思っています。そうしたほうが、予定を立てた上で提案を出す・出さないを決めやすいだろうということもあります。

それ以外はプログラム委員会の中のことなので、ここでは報告の対象でもないかもしれませんが、一応議論した結果の内容をお話しすると、審査シートについて議論をしました。これは堀田さんがつくっていただいたものに基づいて議論をしましたが、これは何に使うかということ、出された提案を定性評価するのではなくて、共通の項目に沿って定量評価をした上で、当日、セッションを出していただく方を選ぼうということでした。

それから、審査委員の人選と審査スケジュールです。審査スケジュールについては、2週間募集を延長することに伴って、ほぼ単純に後ろに回しています。結果、応募してくださった方に結果を正式に通知できるのが7月24日、または25日ということになっていますが、こちらは、審査のスケジュールリングで、早く結果が出れば早くお知らせするという事にします。それから、審査委員については、プログラム委員会の中から互選することにしております。ステークホルダーのバランスと、それから、利益相反の生じないように行うということです。利益相反の生じないようにというのは、セッションを提案して下さっている方が少なくとも自分の審査には関わらないようにするという意味で、前回もそのようにしていました。ここについては、全くその審査委員にすら入らないというものから、審査委員には入るけど、自分が関わるものの審査には加わらないというものまで、幾つかバリエーションがあると思いますけれども、人数が限られていることから審査委員の人選の自由度が低いので、あまりいろんなことはできないので、おのずと決まってくるだろうと思いますが、いずれにしても、プログラム委員会の中から審査員のサブセットを選んで、それでもって審査をするということにしています。

企画セッションについてはほとんど議論が進んでいけませんので、引き続き皆さんからのアイデア募集という感じでしょうか。

ということで、今日報告の上、皆様に特に御意見というか、コンセンサスをいただきたいのは、日程の件と、それから、セッションの募集の延長の件、この2点です。

報告とついでに申し上げてしまいましたけれども、加藤さん、これはどうしたらよいでしょうか。お

任せればよろしいでしょうか。

【加藤】基本的にプログラム委員会の方々が強いコンセンサスといますか、御提案いただいているので、経緯とか、まず御質問で。これは非常におかしいんじゃないかというようなことがあれば、ここで伺うということで、基本的にはこの場で承りましたというふうに進めさせていただければと思うんですけど、皆さんいかがですか。

日程はもう決め打ちで、いつまでも決められないままで、応募してくる方々もコミットできないということもありますので、プログラム委員会のほうでいろいろ検討していただいて、日程を決めていただいたということです。

それから、応募のほうも、いろいろ検討中の方もいらっしゃると思うので、本件のIGFのほうも延期したというのがありますし、応募期間を2週間延ばされるという御提案をいただいています。

御質問、御意見ありませんでしょうか。皆さんよろしいですか。

なければ、今の2点、特に、この場でも了承したということで、その線で進めていただくということ。

それから、この場をお借りして上村さんから言っていただければ同じことなんですが、ぜひ、例えば昨年、同じ国内の会で参加された方とかも含めて、ぜひ今年もいろいろとワークショップを提案していただきたいということと、お知り合いの方々にもそういう声をかけていただければと思いますし、もう一つは、さっき一番後ろのほうにイベントの企画ってありましたけれども、今プログラム委員会のほうでは、先日、前村さんが参加されたセッション、ちょっと下のほうスクロールしていただくと、別の場で、インターネットの、今非常に重要な問題についてセッションをやられたりしていますが、そんなようなことも一つ大きな候補じゃないかというのがありました。これもぜひプログラム委員会に、御提案等あればしていただくといいのかなというふうに思います。

上村さん、何か、その辺についていかがでしょうか。

【上村】ぜひお願いしますということなんですけど、これ、最終的には誰を呼んでどういう話をしていただくかということに落とさなければならぬので、そういうイメージを持っていろいろとアドバイスを、アドバイスというか、意見をくださるとよいだろうと思いますし、この企画セッションの内容だけプログラム委員にしますという方がいても、私は構わないんじゃないかと思いますので、そういう形で、イベントのマーケティングに加わってくださる方がいるとありがたいと思います。今言えることはそれぐらいでしょうか。

【加藤】そういう意味で、ここに書いていらっしゃるメインセッション、基調講演ということで、何か基調講演をいただくとか、御挨拶的に基調講演いただくというのに加えてなのか、あれですけども、やはり一つ大きなテーマでパネルディスカッション的なものがあるといいという、そういうお考えだということですね。

【上村】そうですね、はい。前回、プログラム委員会で、そこもまだ意見の統一を図っている最中ですけども、私のイメージとしては、1人が1時間話しっ放しではなくて、基調講演で20分、30分問題提起をして、それで反応を見るというほうがIGF的になるだろうと思っています。

【加藤】そういう意味で、自薦他薦を含めて、ここに参加されている方々からもいろいろアイデアをいただければいいということだと思います。

御質問、追加ございませんか、皆さん。

もしなければ、次、進めさせていただきたいと思います。

次は、NRIの組織の枠組み・仕組み、この辺について検討を進めていただいていますけれども、前村さんから御報告いただけますか。

【前村】前村でございます。聞こえておりますでしょうか。

【加藤】はい。

【前村】ちょっと苦戦をいたしておまして、今日は2点ほどお伝えするということでございます。

一つは、この前までのお話というのは、前回どういうふうなお話をしたかということ、前々回からの宿題で、フォーラムと運営団体の役割分担をかなり細かく明確にするということと、どういうふうなインタラクションをつくるのかというふうなことを図示してお示ししたということなどの宿題を少しやってきたというところが一つと、もう一つは、活発化チームの議論として進められるところと、もう一つは、設立発起グループ、設立発起人の皆さんが主体であるので、主体にお任せしなきゃいけないところというのを明確に分けたほうがいいよねというようなお話を差し上げました。

それで、以降、そろそろというのか、JPNICとしても、組織化、こういうふうな新しい運営団体をつくるんだよみたいな話を最終的には組織決定して、組織の承認をもらうというふうなプロセスに進んでいかなければなりませんので、そちらのほうを着手してJPNICの中の議論を始めているんですが、ちょっと結論というのか、この3週間何をやっていたかということ、そちらのほうに手がかかりきりになってしまいました。

というのは、改めて活発化チームのメーリングリストであったりとか、資料として出しているものであったりとかを見ると、結構、会合上では、口ではこういうふうな考え方ですよということ、説明している私なんかは、これで分かっていただけではないかと思っているものも、案外、同床異夢になっている可能性があるかもしれない。ことごとくJPNICの中からかけられる声というのが、いや、そうは考えてないんだけどなというふうなことが多くて、中の意見の取りまとめというのは結構苦労するというのをやっていました。したがって、活発化チームの中の議論を進めるということに、今回はひとまず至ってないというところをおわびしなければなりません。申し訳ございません。

というのと、もう一つのポイントというのは、その設立発起人にグループにどういった方々をお声かけしていけばいいかというのを少し相談しながら進めておまして、一つは、インターネット等に対して、これまでも、インターネットの運営などに関して矜持をお持ちのというのか、インターネット自体をどうやって運営していくのかというところに御関心があるというところとして、インターネットエクステンジの事業会社さんというのが大きなところで3社さんいらっしゃるというのと、もう一つは、具体名で言うとIJさんなんですけども、IJさんもこういったところに御関心があるというところで、いろいろと御相談しているうちにそういった話が聞こえてきましたので、それぞれアプローチしてあんな

いというのか、こういった感じの姿勢でいらっしゃるのかというのを今ヒアリングしたりなんかして、実際にお会いする時間をいただいたりなんかしてということで、手探りで進めているところでありましてということが、進捗報告として本日させていただければと思います。

それ以外の、先週新しく書き起こしたドキュメントにいろいろと御指摘などいただいているところに関しましては、できれば今日、そこら辺をさらって新しいドキュメント持ってくればよかったんですけども、ちょっとそれには至っておりません。なんですけども、また3週間後に同じようなことを言うのはとても嫌なので、そちらのドキュメントのほうは少し考えを進めて、新たなバージョンを今週中にでもお見せできるように、これはメーリングリストの上でやらせていただければと思います。

というわけで、本日、組織化のほうに関しましては、そういった感じのステータスアップデートに限られてしまうんですけども、そういったことで御承知おきいただければと思います。

御質問あったら承ります。よろしくお願ひします。

【加藤】ありがとうございます。御質問はございますか。

皆さん、よろしいでしょうか。

私から追加的に教えていただければと思うんですけども、JPNICさんを中心にいろいろ検討していただいて、内部できちっと固めていただくというのが非常に重要なことだと思うんで、それは建設的なことだと理解しているんですが、全体のスケジュールといたしますか、例えば、今回、日程を決めていただいた10月の後半の頃に大体めどがつくというか、その頃に組織化の方向性を発表していただくというスケジュール的なことは、特に大きな変化はないんでしょうか。

【前村】堀田さんがお書きになった線表だと、6月20日のところで趣意書案であったり幾つかのドキュメントが合意に至っているという線表をお書きだったんで、それはちょっとミートできない状態になっているんですけども、さりとて、お声がけをすとかということ、ドキュメンテーションと、私は社内的な合意形成、意識合わせ、合意形成などを進めるということをやつていくということで、10月の秋イベントというのが、日本インターネットガバナンスフォーラムまでには組織化を間に合わせたいということで、ここに関しては気持ちは変わっておりませんので、その方向でやつていければと思つております。もっとねじを巻かないといけないですね。

【加藤】ありがとうございます。それで、あとドキュメントの点なんですけれども、今言われた趣意書、かなりこの場でも意見いただいて、最終案に近くなったのかなというふうに理解していたんですが、趣意書自身をさらに何か全面的に書き換えるということじゃなくて、もう少し別の形の説明も、今回、さっき言われた今週中に考えをまとめますと言われたのが出てくるという、そういう理解でよろしいですね。

【前村】そうですね。設立趣意書案に関しましては、一つは、JPNICの中の議論で、大変、加藤さんに言いにくいところなんですけれども、みんなのインターネットというのが、少し受け入れられにくいものであるということが分かってきまして、ということですね。

【加藤】それは名前をぜひ変えていただいて。

【前村】 というようなところは、ちょっとこの際あんまり重要なポイントではないとは思いますが、設立趣意書のほうは、何でしょうね、結局そのバリューが何であるのかということをご提案しようとするときに、もっと力強い設立趣意書である必要があるんじゃないのかなということをごぼんやりとは思っています。なんですけども、基本的にはあの線からは変えなくていいだろうというふうに思っています。

【加藤】 分かりました。どういうものを完成に向けてつくっているかということも含めて説明いただければと思います。

【前村】 そうですね。設立趣意書自体は、こういうふうなフォーラムをつくりたいよねというふうなことが書いてあって、それをどうつくっていくオプションがあるんだろうかみたいなことを書き出すというところが必要んじゃないのかなというふうに、今、議論ではなっているところなので、そういったものを追加でお示しして御提案するということがかなというふうに思っています。

【加藤】 分かりました。

【前村】 堀田さんの手が挙がってます。

【加藤】 はい、堀田さん。

【堀田】 前村さんの御説明を聞いていると、どうしてもJPNICで引っかかっていますということが中心に聞こえてしまうんですけど、もちろんJPNICさんの中、ちゃんと考えていらっしゃる方が多いので、それはそれで重要かと思うんですけど、JPNICさんを通過したらそれで通過するというものでもないんで、そこは心配してます。

要は、興味を引けるお金が集まるような書き方とか、書き方より仕組みですよ、仕組みとか書き方になっていきますかというところで引っかかっているんだとすると、各ポテンシャルのある企業さんとか団体さんに持っていても同じ話がある可能性があるんで、あんまり詰めてしまわずに、早く、仮フィックスでもいいからつくって、主なところ、全体にまくのはまずいでしょうけど、主なところまず、絶対入ってほしい組織の中で話させるという手順を踏んだほうがいいのかと思って聞いていました。

【前村】 ありがとうございます。そういった意味では、今あるドキュメントを参画していただけるような団体の皆さんでは、こんなんでどうだろうねというふうな相談は進めていただくのがいいとは思いますが、私もJPNICに相談し始めたら、案外いろいろと意識が分からないもんなんだなという、意識は分からないというか、ドキュメントに表れないところでいろんなものを我々は前提として考えているんだなということが分かったりしましたので。

【加藤】 ありがとうございます。じゃあ、そこはぜひ、今週新たなものというんですけども、また全部ゼロから書き直しとかじゃないというふうに理解していますので。

あと上村さん、お願いします。

【上村】 JPNICの中でという話を聞いてふと思い出したんですけど、2014年に総務省というか情報通信

審議会の下のドメイン名政策委員会というのが報告書を出しましたよね²。その中で、日本におけるインターネットガバナンスの議論の場をつくるべきという話があって、いろいろ候補がある中で、例えばということでJPNICが主導することもあり得べしと書いてあったりしてますよね。

それで、そもそも今回の団体づくりがそれに應えるものなのかというところから確認したほうが良いとは思いますが、何ていうんですかね、JPNICとしては、やっぱり振られている以上、何かアクションを起こさなきゃならないと思うんですけども、そういう点とかは社内を説得する材料とか交渉する材料に既になっているのだから、ふと思ったので、この場でお答えいただくには及ばないんですけど、そういうことの連続性も考えていただくといいかなって、そういえば思い出しました。

【前村】なるほど。そうですね、そういうこともありましたし、それをどういうふうに踏まえて次のアクションを起こすのかというふうなことが、ちゃんと踏まえられていることがとても大事だと思います。上村さん、ありがとうございます。

【上村】ただ、それは割と深刻な問題で、JPNICさんが打ち返さないとしたら、よそが打ち返してもいいということになると思うんですよね。だから、これはやっぱり、あんまり見逃さないほうが良いのではないかと思います。

【前村】そうですね。こういったものができてくれれば、ここでいいんだなというふうに思っていたけるといふようなことですね。

【上村】はい。

【前村】でも、それは何でしょうね、私がどうのとかということではなくて、今活発化チームで進めている議論が、そもそもの確かなものをつくろうとしているんじゃないのかなと私自身は思っているんで、そこで、あまり過度な心配はしてないですけども、ただ押さえたほうが良いポイントだと思います。

【上村】それ、趣意書に入っているんでしたっけ。そのことって。

【前村】その言葉は入れてはないですね。

【上村】それ、入れたほうがもしかしたらいいかもしれませんよね。

【前村】そこは……。

【上村】総務省との調整が必要かもしれませんけど。

【前村】総務省さんがどういうふうに考えているかということが重要なんじゃないのかなと思うんですよね。

【上村】ちょっと、そういうことも、メーリングリストで議論するのであればそういうことも。

² ドメイン名に関する情報通信政策の在り方<平成25年10月1日付け 諮問第20号>答申 P.35
https://www.soumu.go.jp/main_content/000328774.pdf

【前村】もしあれを踏まえようとしているんだったら、もうちょっと先に何かやってなきゃいけなかったんじゃないのかなと思ってると言ってますけどね。

【上村】いや、とはいっても、この後またそれつくりますというわけにはいかないと思うので。

【前村】それもそうですね。

【上村】なので、立石さんに譲ります。

【加藤】立石さん、手挙げてらっしゃいますから。

【立石】上村さんがおっしゃったこと、私も気にはなってはいたんですけど、ひょっとしたらこれで動きが止まっちゃうんであれば、むしろもう、あんまり気にしないで行っちゃったほうがいいかなと思っています。多分、どっかでやらなきゃいけない話ではあるとは思いますが、現状の時間のなさを考えたら、どうなんだろう、何か——やらなきゃいけないのは重々分かっているんですけど、表現は悪いですけど、寝た子を起こしたことになるっちゃって、それで進まないんだとすると、これは突っ切っちゃったほうがいいかなと、私は個人的にはそういうふうに思います。以上です。

【加藤】ほか、今、上村先生が御指摘の点は、実際あの後、国際IGF、やっぱりIGFをにらんでコメントがあって、日本からもそういう情報発信が必要だというやり取りが、たしかあの委員会でもあったと思うんですけども、それを踏まえて、前村さんや山崎さんやJPNICさんとしても、実際の仕事をずっとされてきているので、それに応えることは継続されているのかなと。今回の前村さんの点は、新たに組織化というやっぱりこれはどうなっているんだという、細かいことを御説明するプロセスの話かなというふうに勝手に理解はしているんですけど。

【前村】それはおっしゃるとおりです。

【加藤】立石さんのほうから、同じようにJAIPAさんもこの活動をずっとサポートされてきているんですけど、立石さんのほうからは、何かこの組織化という話についてお聞かせいただくようなこと、ありますか。

【立石】協会としては、理事会でもオーケーいただきましたし、総会でも発表して、もう会長自らが積極的に参画しますというふうに言っていますので、協会としては、これは前向きにどんどんやっという——ちょっとあんまりお金がない団体なので、なかなかこれは難しいかもしれませんが、やっというと思います。以上です。

【加藤】ということは、JAIPAとしては組織的にサポートして、それは当然、そういうことがあれば発起人にも入っていただくということですね。

【立石】そこまでは、はい。

【加藤】それで、かつ、会員の方々にもいろんな形でサポートするよという呼びかけもしていただくということですね。

【立石】はい。

【加藤】ありがとうございます。ということで、前村さんにはぜひもう一度継続して頑張ってください。

【前村】やります。皆さん、御示唆いただきましてありがとうございました。

【加藤】あと組織化の件について、御質問とか御意見、ありますでしょうか。

【上村】加藤さん、よろしいですか。

【加藤】はい。

【上村】そういう意味では、今回の動きを総務省としてどう御覧になっているのかというのを、当事者でもイコールフットイングで、総務省のこの場に当事者として加わっていらっしゃるんですけど、そういう点で、今回の一連の動きがどのように見えているのかというのを、今日でなくても何かのタイミングでお聞かせいただければと思います。何か今日お聞かせいただけることがあれば、ぜひ伺いたいと思います。

【前村】前村です、賛成します。

【加藤】飯田さんがまだ御参加じゃないかもしれませんが、何度もあれですが、柴田さん、もし何かコメントございましたら。

【柴田】すみません、飯田のほうですけど、先ほどチャットさせていただきましたように、本日、海外出張なので飯田の出席は難しいです。なので、すみません、私が総務省を代表して、ああだこうだ言える立場にあまりないんですけども、データ通信課の課長補佐としては、このようにして皆様が頻繁に議論いただいて、どのように国内での活動を盛り上げていくかということをお検討いただいているのはすばらしいことだと思っております。どのようなテーマで日本でのイベントもやっていくとか、そういうことも含めて御検討いただけているということはよいことだと思います。

私の立場で、これ以上、これができる、あれができると言える状況にはないのが心苦しいですけども、どのように思っているかというお話でしたので、一言申し上げました。

以上でございます。

【加藤】ありがとうございます。

【上村】たびたびすみません。柴田さん、ありがとうございます。ただ、2014年に出た報告書は私も加藤さんも委員として関わっていますが、あの場でこういうものが必要だという問題提起がされているわけですよね。今回の活動がよいものであるというのは、それ、そういう評価をくださるのありがたいですけども、あの報告書で言われたゴールにこれが近づいているのかどうかというような、そういう視点も必要になるかもしれないなと思ったもので、先ほど伺いました。

もしかすると、我々に至らないところがあるので、まだそういう評価に至っていないのかもしれませんが、この件、もう少しコミュニケーションさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【柴田】 かしこまりました。2014年、おっしゃっていた報告書は、もちろん重要な検討の結果だと思えますけれども、それも踏まえつつも、まさに現在、多分2023年のイベントに向かって、大きなイベントに向かって進まなきゃいけない状況にあるわけで、現状を踏まえて、この取組に対してどう見るかということだと思えます。

必ずしも報告書の役割を満たしているとか、そういうところだけによって、何か活動が限定されるというものではないと、少なくとも、現状はまさに動いてきているわけですから、その中で評価という言い方は、総務省の一担当があまりするものでもないかと思うんですけど、何でしょう、この活動を進めていただいていることに対して、よいものだと思っていると、そう申し上げたところでございます。

【上村】 ありがとうございます。

【加藤】 引き続き、ぜひ総務省の方々もいろんな形でこの活動を御支援いただければと思います。こうやって参加していただいていること自身が大変ありがたいことなんですけれども、例えば、さっきプログラム委員会からありました審査の委員会にしても、政府の方から公平な審査をして、いろんな発表の場につなげたいということもありますし、IGFのプロセス自身が、こうやってステークホルダーが全員参加でやるということで、もともとそういう趣旨の活動を進めようということが今に引き継がれているわけですので、ぜひ、引き続き御支援をお願いしたいと、私からもお願い申し上げます。

【柴田】 よろしく願いいたします。

【加藤】 あと、皆さんよろしいでしょうか。既にJAIPAさんとか、それから前村さんからもインターネットエクステンジの会社、およびIIIさんなんて名前も出ていましたけれども、コンタクトを始めていただいているようなので、動き出しているかなというふうに思います。

あと、よろしいでしょうか。

それでは、この組織化の話は、次回までにも、前村さんからまた何らかの紙なりが出て、動きをメール上で伝えていただけるということになると思いますので、そちらのフォローでよろしく申し上げます。

【前村】 できるだけ、小まめにアップデートしていきたいと思います。よろしく申し上げます。

【加藤】 よろしく申し上げます。

では、山崎さんからユース活動の件、その後、前回、初めて御提案いただいたもののアップデートとございますか、お話をお願いしたいと思います。

【山崎】 では、山崎からユース活動案についてアップデートをいたします。

前回、会合の2回前でしたか、御意見を幾つかいただいていますので、それほどないんですけれども、幾つか御意見いただきました。

立てつけのところは変わっていません。スケジュールのところも変わっていません。

エンゲージメントのところは進んでいないんですけれども、別件で、このAPSIG、アジア太平洋スク

ール・オブ・インターネットガバナンスの方とコンタクトができましたので、今後、相乗りなどについて、可能性を探りたいと思っています。

教育セッション案のところですけども、色つきでハイライトした部分がアップデートというか、前回いただいた御意見を反映したところですけども、一部分は遠隔のワークショップとするですとか、セッションを修了なさった方に修了証のようなものを出してはどうかということで、ついては、多分、例えば総務省さんのようなところから出していただけると、権威づけというか、そういうものがあるいいんじゃないかというのが、たしか実積先生だったと思いますけども、御意見としてありました。ちょっとそれが実現可能かどうか分かりませんが、もし可能そうでしたら、そういうことも考えたいなと思っています。

募集要項のところは、余計なものは削るということで、ちょっとこれ、差分が分からないで申し訳ないんですけども、余計なところは削りました。

あと、一番大きな指摘は、リソース、現実的な案をとということだったと思いますけども、まだ新たなNRI、組織化はできていないので、そこができていればそこからで、かつそこから費用が手当てできそうなら、そこからしていただければ理想ですけども、そうでなければ、今の現状で可能な限りということになりますので、それほど思い切ったことはできないかもしれません。人的リソースについても、どなたかが時間をかなりコミットいただけるというお申出があれば別ですけど、なければ、私一人でやるしかない。もしくはJPNIC内でリソースをかき集められれば、かき集めるぐらいしかできないというのが現状でございます。

アップデートは以上です。もうこの後は、この4つのモデルというのを説明しているだけです、そこには変更はございません。

【加藤】モデルは1のままということですね。

【山崎】1のままですね。

【加藤】当面それが現実的と。

【山崎】はい。

【加藤】ありがとうございました。御質問とか御意見とかございますか。

このスケジュールの中でも、最終ゴールが来年のIGF2023のユースイベントで、ユースの何か企画をするということだとして、今回、秋のイベントは木曜日と金曜日の午後やるということでプログラム委員会から御提案いただいて、今日御了承いただいたわけですけども、実積先生が、もしユースの方が本格的に参加するんだと、週末とかいろいろ、来年以降考えていけないというような御指摘があったんですが、今年の秋に何か少し、こんなものというのを知っていただくようなこともできるんでしょうかね。それは授業としてみたいなことでなければ、午後3時からの時間であれば大丈夫なんでしょうかね。

【山崎】それは金曜日という話ですか。それとも土曜日の話ですか。

【加藤】 いや、木曜と金曜日の午後ですから。追加で土曜日という話は今ないので。僕が申しあげているのは、ユースのセッションをするという意味ではなくて、こういうことだということを知っていただく一つの例として、こういう会を聞いていただくなりということは案内することはよろしいんですね、これは。

【山崎】 それはもちろんやったほうが良いと思いますし、ですから、前回御相談いただいた高等学校の先生とかに協力を呼びかけて、例えば授業の一環で聞いていただくとか、質問していただくとか、そういうこともできればなとは思っていますけれども。

【加藤】 ここで言われている22年の8月に募集し、9月に5名から10名選定するという場合、そういう候補がもし決まれば、10月のセッションも何らかの形で、録画でもいいのかもしれないですけども、聞いていただくなり、場合によっては一部飛び込み参加もあるのかもしれないですけども、そういうことも企画いただけるということですね。

【山崎】 そうですね、はい。議論に参加するというIGFの醍醐味を経験していただくには、録画ばかりでなくて、できれば質疑応答にも参加していただくのが一番いいかなとは思っています。

【加藤】 分かりました。このスケジュールは、そのときに間に合うぐらいのタイミングだということですね。

【山崎】 はい。間に合わせたいと思います。

立石さんから手が挙がっています。

【加藤】 そうですね、立石さん。

【立石】 毎年講義だけなので、私、はっきり言えないんですけど、一応東北大学のほうでガバナンスを教えているので、できるだけ巻き込むかなとは思っています。御参考までです。以上です。

【加藤】 そういう場をお持ちの方々、ぜひこういうのに声をかけていただいて、たくさんの方が聞いていただくのはいいと思います。ありがとうございます。

あと御質問、御意見ありますでしょうか。

もしなければ、また次に進めさせていただいて、チーム会合の運営について。これは前から残っているアジェンダ案で、まだ決めることというのは、山崎さん、あるんでしょうか、この項目として。前回もチェアを決めるというところまで進めていただいたのですが。

【山崎】 チェアは加藤さんに決まりましたので、あと残っていることとしましては、このチェアを決めたことをチャーターに反映する……。

【加藤】 反映するとおっしゃっていて。

【山崎】 残っていますね。

【加藤】 そうですね、まだそれが残っているんですね。

【山崎】 はい。前村がやると申し上げて、それがまだ完了していないようなので、それができ次第、また、この場、もしくはメーリングリストで御紹介するということになるんじゃないかと思います。

【加藤】 分かりました。じゃあそれは適時、チャーター変更部分というのをメールで上げていただいて、またタイムルール³で承認いただくということで、形式的なことですね、それであれば。

【山崎】 そうということかと思います。

【加藤】 ありがとうございます。それじゃあ、あとtodoの確認ということで、秋イベントについては、先ほどのあれでいうと、上村先生、何か、todo確認というのでありましたでしょうかね。

【上村】 プログラム委員会のことですか。

【加藤】 はい。秋イベント、プログラム委員会です。todoというか、決めることという意味では特に、もう主なことは決まっているのと、そういう意味ではあれですね、2週間延期するけれども、なるべくいろいろコンタクトして、たくさん応募していただくために各自、動いていただく。

【上村】 そうですね、はい。それはお願いしなければならなくて、各自というよりは、やっぱりこれも誰かメインボールを持っている人をはっきりしたほうがいいと思うんですけど、今回はちょっと間に合わないかもしれませんが、そういう意味で、どうしたらいいのかと思った。

【加藤】 あとプログラム委員会の委員の中で、特にこういう働きかけを中心にやる人というチームもつくくるんじゃなかったでしたっけ。これはプログラム委員会の内部のあれですけども。

【上村】 はい、そうです。

【加藤】 そうですね。だからそういう意味で、これは内部的にプログラム委員会としてもやられるけれども、ぜひ個々に参加の方々も自薦他薦で秋イベントの内容を充実するためにやっていただきたいということですね。

【上村】 はい。ちなみに、山崎さんにお尋ねしますが、この間も聞いたことだったらすみません。メールベースで構わないんですけど、今どういうところに流したんですか。

【山崎】 公募の案内ですよ。

【上村】 はい。

【山崎】 JPNIC内のメーリングリストに3つですね、会員と、一般のお知らせと、あとイベントのお知らせ。あとは、この活発化チームのメーリングリストで、あとは、旧と言っていいのかわかりませんが、IGCJのメーリングリストの2つに流していて、あとJAIPAさんのほうでは会員もしくは、ちょっとどういうメーリングリストがあるのか存じ上げませんが、流していただいているはずですよ。

³ チャーター4. b) https://japanigf.jp/application/files/8716/3166/9743/charter_1st_Ed_20210727.pdf

【上村】ありがとうございます。

【加藤】恐らくメールを送っただけでは、そのまま、ああ、そういうのがあるのかで止まっちゃう可能性があるんで、いろんな広報の方にどうですかって声かけていただくようなこともあればいいんじゃないかなと思いますけど、いかがですか。

【上村】そうですね、本当、本来であればそういうことを働きかけたほうがいいでしょうし、そういう心配をするためのエンゲージチームというか、エンゲージグループが必要だろうと思います。これ、今回はセッションの募集なので、そうはいつでも比較的近い方しか反応されないと思うんですけど、この次のステップで、こういうイベントがありますよと、IGFというのが日本にも来ますからぜひ参加してください的な説明というか、お誘いをするフェーズが来ます。そうなったときには、今よりはもう少し広く流していただく必要があると思うんですよ。だから、例えばそのときにどういうターゲットが考えられるのかというのを整理する必要もあると思いますので、今回はあれですけど、次のステップではもう少し全体像を把握しながら進めるべきかと思います。

ちなみに、今日御参加の方で、何か流せますとか、そういう関連のものとか、そういうのはないでしょうか。

【加藤】また参加されているからあれですが、河内さん、横澤先生は前、参加されたように記憶していますけれども、また同じようにやっていただくというような動きはあるんでしょうかね。

【河内】予定が合うかどうかですね。最近出張でパリに頻繁に行くようになってきたので、ちょっと予定が合えばというところですけど。

【加藤】リモートで、パリから、夜中にやってくれって。

【河内】そうですね。向こうの夜中に。

【加藤】実際は向こうの夜中じゃないですね、パリは朝です。

【河内】夕方ですかね。そうですね、はい。

【加藤】あと、勝手なあれですけど、立石さんもいろいろされているので、延長でお考えかなというふうに思いますけど。

【立石】はい、ちょっと。

最終的に、ちょっと僕が気になっているのは、マスコミどうするかというのは、まだちょっと先かなとは思いますが、新聞社なり何なり、つてがあるところにはお話はしようとは思っているんですけど、そのタイミング、ちょっとまだ分からないので、何ともなんですけど、日程決まってあれし始めたら、やってもらったほうがいい。

【加藤】プログラム委員会で少し検討しますかね。そういう意味ではマスコミの注目もあったほうが、来年の盛り上がるのためにはいいのかもしれないですね。

【立石】 はい。そんな感じです。

【加藤】 はい。

【上村】 すみません、ちょっと今の関連で思い出したんですけど、今回の参加と、それから今後IGFの国内の活動とがどう関わっているのかということがイメージできると、少しニンジンっぽくなっていいような気もするんですね。つまり、IGFが日本に来ることになってからいろいろと始めても、やっぱり活動の中心にはなかなかすぐには入れないと思うので、そういうことも踏まえて、見据えて、今のうちから、いつからこういうことに加わってほしいというような言い方ができたほうがいいなと思います。

ただ、そう考えると、組織を新たにつくるとかという、若干断絶っぽい感じもあったりして、それが言いにくいところもあるんですけど、何かそういう次の、来年以降との連続性が示せるとよいのかもしれないと思いました。

【加藤】 そこは前村さん、いかがですか。私の理解では、前村さんがおっしゃっているフォーラムというのは、もうまさにこのグループの、こういうプログラム委員会とかでやられていることの延長だと思うんですけど、いかがでしょうか。

【前村】 私もそういうふうに思っています。断絶というのか、新しい、継承するべき好ましい形というのを今我々はつくっているんだろうというふうに思っていますので、そういうふうに見えにくいというのは、何か工夫したほうがいいのかもしれないなと思います。

【加藤】 だからあまりそういう方々に、組織化して、何か模様替えしているみたいに言わなきゃいいんですね。

【前村】 うん。

【加藤】 今の体制をさらに強化しているって、趣旨はまさにそういうことだから、そういう言い方をするといいことだと思います。

【前村】 ええ、はい。

【加藤】 上村先生、よろしいでしょうか。

【上村】 はい。今の段階では……。

【加藤】 今の段階。

【上村】 そういう雑談以上のことはできないというふうに思います。

【加藤】 分かりました。

じゃあプログラム委員会関係のtodoはこの辺が出てきて、次、NRIの組織枠組みについて……、ごめんなさい。堀田さんかどなたかが今、見えたんですが。

【堀田】すみません、ずっと手を挙げていたんですけど、ちょっとした関連で、今、フォーラムというのは我々の活動の続きですよと、我々というのは活発化チームだと思うんですけど、例えば、私個人はJPRSを代表しているつもりは全くなくて、JPRSの意思をこの場に伝えているつもりがあまりないんですね。ですから、今の進め方として、この活発化チームがフォーラムに結びついていくんだけど、そのサポートを新しい団体、法人がやるというふうに説明したほうが分かりやすく、新しい法人をつくりましますよ、その上でIGFフォーラムっぽい活動をやりますよという説明だと、なかなか、今おっしゃっているように、新しい法人をつくるんだ、ふーんという感じになっちゃうのかなと思うので、活動は脈々として、そのフォーラムとしての活動が脈々として続いていて、それを支援する団体をつくるという説明方法のほうがいいのかなどというふうに思って、聞いていました。

【前村】なるほど。

【加藤】ありがとうございます。恐らく前村さんがおっしゃっているのも、そういうことかなというふうに理解しました。

【前村】はい、そういうことでございます。

【堀田】はい。

【加藤】よろしいでしょうか、あと。

それでは、宿題事項でNRIの組織枠組み、これは前村さんが言っていた方がいいのかもしれませんが、何やりますと言っていた方がいいのかもしれない。

【前村】前回の分界点、フォーラムと運営団体のドキュメントの改版が。

【加藤】1枚の紙ですね。

【前村】ドキュメントの改版をします。設立趣意書の改版を試みます。その他、働きかけなどの進捗があれば、逐次御報告します。それくらいでしょうか。

【加藤】分かりました。あと、堀田さんから御指摘あったとおり、JPNIC内だけでとどまるのではなく、ある程度いろんなところにも働きかけをするということで、これ、継続事項だと思いますが、立石さんも既にいろいろやられているようですけれども、それもちょっと考えていただければと思います。

それで、じゃあ次、ユースのほうは宿題事項というか、先ほどあったコメントや何かで御提案をアップデートしていただくことと、あと8月に人選のために募集するということであるとすると、そろそろ、先ほど立石さんから御提案があったような、どんなところで声かけるかという、そういうのも検討していただくといいのかもしれないですね。

その辺、山崎さん、いかがですか。

【山崎】声かけ先のリストは必要だと思います。あとは、募集要項をそろそろ作り始めないといけないかなとは思っています。ですから、その辺は……。

【加藤】これも何かコミットになっちゃいますね。IGFとはこういうのですというのを、もう一回ユースに説明するための紙を、いろいろ引っ張り出して。

【山崎】かなり分かりやすく書かないと、今あるものだと、何じゃ、これってならないとも限らないので、ちょっとそこは一ひねりが必要かと思っています。

【加藤】じゃあ、これ、御自分でちょっとそこを。

【山崎】はい、すみません。

【加藤】いえ、todo確認を埋めていただいて、今言われたようなことだと思いますが、ほかの方、ここ、何かユースについて御意見とかありますか。よろしいですか。

そうすると、あとは項目として次回なんですけれども、9月の12から14日に日程決まりましたよね。アジアパシフィックで会(APrIGF)があるんですけれども、この辺何かフォローされている方いらっしゃいますか。この場で、皆さんの御参考までに、もしあれば。今日はMAGの河内さんもいらしているので、グローバルのほうは少し状況分かったんですが。

立石さん、お願いします。

【立石】フォローというか、こっちも、何て言うんですかね、恐れずに、一応1個提案出していますけど、これもちょっと分からないです。ほぼほぼ内容的には国連のほうに出したのと同じですけど、去年、例の漫画村の件でいったら、割と反応よかったかなと勝手に思っているんですけど、それで今年の方も一応、そのプラスアルファと、今もめている事業法改正、もめているというか、この間可決したんですけど、事業法の改正とか、そういう日本は丁寧に行っていますよということをちょっとお知らせしようかなと思って、一応1個出しました。まだ結果は来ていないですけども。

以上です。

【加藤】山崎さん、お願いします。

【山崎】なぜか向こうの運営側から連絡が来まして、IGF2023なり、この活動もそうだと思いますけども、APRIGFを売り込みの場に使っていいよ的な連絡が来ましたので、最大限活用できればと思います。今後も何か具体的な話が出れば、皆さんにお知らせしたいと思います。

以上です。

【加藤】ありがとうございます。そういう意味で活動の場というか、PRの場という意味で、何度も振ってあれですけど、柴田さんしかいらっしゃらないのであれですけど、政府としても、このAPRIGF、何かフォローされる予定はございますでしょうか。

【柴田】すみません、ちょっと現時点でフォローという、どのような形でというのがまだ、決まっていることといたしますか、共有できることがない状況で申し訳ございませんが、共有できる状態になれば、また御連絡させていただけると思います。

【加藤】 よろしくお願ひします。

山崎さんがもう一回、先に挙げられたのかな。堀田さん、次。

【山崎】 APriIGFの事務局からは、去年もそうだったらしいんですけども、総務省さんに挨拶してほしいという依頼が書いてあったので、それは飯田さんにお送りしたところ、省内で検討なさるということでした。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。そういうことも含めて、ぜひ御検討いただければと思います。

堀田さんからは、いかがでしょう。

【堀田】 今、山崎さんがしゃべったこととほぼ重なるんですけど、昨年、私、APriIGFの運営チームに入っていて、日本からしゃべらせてくれって言って、入れてもらったんですね。そのとき飯田さんがしゃべってくれましたというのがあって、2023の紹介をしたということなんですけど、今年もそれと同じような位置づけで、クロージングでしゃべってくれ、イコールIGF2023へのソリシットしてくれということだと思いますので、ぜひ総務省さんから今回も話していただければというふうに思っています。

以上です。

【加藤】 やはり参加されている人数とか場所、地理的な理由からして、APriIGFで来年日本がやることを、そういう意味でアジアで初めてやるということアピールできるというのは非常に重要なことなので、ぜひ総務省さん、どういう形でやっていただくか、検討していただければというふうに思います。

【堀田】 堀田ですけど、昨年、オンラインですけど、飯田さんがお話しされた後に、チャットルームで、俺も東京へ行く……東京じゃないな。俺も日本に行く、私も日本に行くというのが、いっぱいコメントが出ていたので、ぜひ、そういう宣伝をするだけでもすごく意味があるなというふうに思いました。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。そのとおりだと思います。やっぱり旅行が、アジアが一番まだしやすいということで、そうなればいいなというふうに思います。

あと、その関連で言うと、前回のこの活発化会議の中で、(IGF 2022)エチオピアのブースといいますか、エチオピアで何かマーケティング活動をしたらどうかと。今IGFのほうでも、そういうことを希望する人は手を挙げろというのがありますが、その点について、その後、何か御検討ありますか。手を挙げるだけ、早く手を挙げて、誰か何かやりますって言ったほうがいいように思うんですけどね、ブースの数も限られているでしょうし、この辺はいかがでしょうかね。また柴田さんというわけにいかないんですが、ぜひ総務省さんのほうでも御検討いただければというふうに思います。

ということで、あと、今日カバーできなかったこと、何かございますか。特にありませんでしょうか。

もしそうであれば、今回は、このままいくと3週目の7月11日月曜日の、やはり5時から7時ということで御提案させていただいてよろしいでしょうか。何かの会合とかに重なって、ここは絶対よくないとかというのがあればお知らせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

じゃ、特になければその方向で、今回は7月11日5時からということで、予定の時間を大分短縮して今日は終わることができまして、プログラム委員会も組織化のほうも少し動き出しているというか、プログラム委員会のほうはもうかなり具体的に動き出しているので、あといろんな方が応募していただければいい状況になってきているんじゃないかというふうに思います。皆さんの御協力、本当に、私が言うのも僭越ですけれども、ありがたいと思っています。

ということで、もし最後何もなければ、これで今日はお開きにしたいと思います。どうもありがとうございました。

以上